

当別町上下水道事業経営戦略（水道事業）概要

1 背景・計画期間

将来にわたって安定的に水道事業を継続していくために、中長期的な視野に立った経営の投資・財政計画である「当別町水道事業経営戦略（以下「経営戦略」という。）」を策定し、計画的に施設、財務、組織及び人材等の経営基盤強化を図ります。

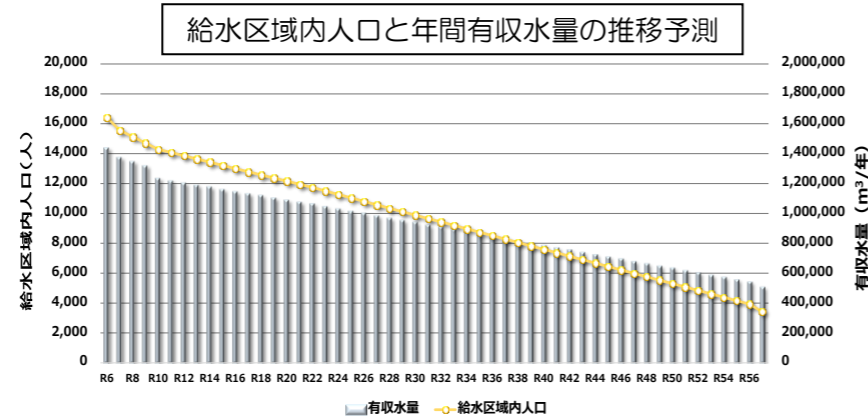
本経営戦略では、計画期間を令和8年度から令和17年度までの10年間とします。

なお、水道事業においては、管路耐震化や高料金対策のための地方財政措置の要件として、以下4点の事項を盛り込んだ経営戦略とする必要があります。

- ①：今後の人口減少等を加味した料金収入の的確な反映
- ②：減価償却率や耐用年数等に基づく施設の老朽化を踏まえた将来における所要の更新費用の的確な反映
- ③：物価上昇等を反映した維持管理費、委託費、動力費等の上昇傾向等の的確な反映
- ④：①②③等を反映した上での収支を維持する上で必要となる経営改革（料金改定、民間活用等）の検討

2 将来の事業環境

北海道医療大学の移転や人口減少に伴い、給水人口と給水量は減少する推計です。給水量の減少により水道料金による収入も減少する見込みです。また、管路の老朽化により各所で漏水が発生しており、水道事業の運営はより厳しくなっていくことが見込まれます。



3 経営の基本方針

3つの基本目標を掲げ、各施策を推進します。

- 1 安全：きれいでおいしい安全な水の供給のため、水道施設の適切な維持管理
- 2 強靱：施設の老朽化対策・計画的な更新
- 3 持続：事業の健全運営

○投資に関する目標

老朽管を現状より増加させないため老朽管率を一定水準（20%未満）で維持するよう老朽管の更新を行うとともに、防災・安全対策となる施設の耐震化を実施します。

○財源に関する目標

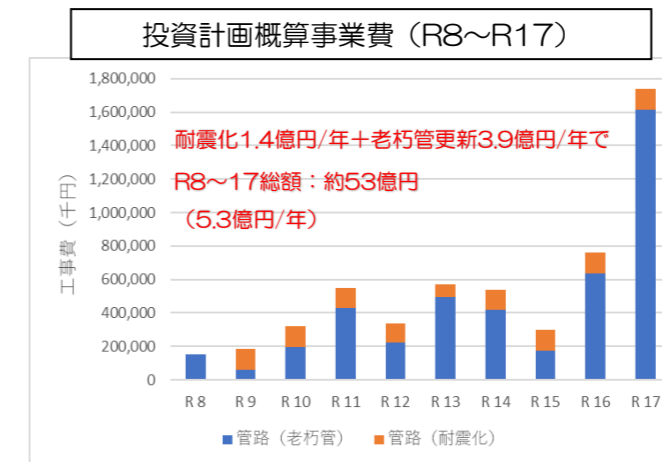
- ・料金回収率：計画期間最終年度時点（令和17年度末）で58%以上
- ・内部留保資金：計画期間内に資金ショートしないように一定の水準を維持する。

4 投資・財政計画

●投資計画

施設・管路の耐震化、鋼管等からの漏水、鋳鉄管更新の必要性といった課題解決のため、施設耐震化事業と老朽管更新事業を計画しています。

- ・施設耐震化事業：重要施設へ給水する配水管ルートや高岡ポンプ場の耐震化
- ・老朽管更新事業：鋼管をはじめとする重要施設給水ルート以外の老朽管の更新



●財政計画

・料金収入

料金収入の減少が避けられないため、令和17年度までに段階的に料金改定による増収を見込んでいます。(R12:29%、R16:29%)なお、令和12年度に経営戦略の中間見直しを行い、その後の料金改定について検討を行います。

・企業債及び国庫補助金

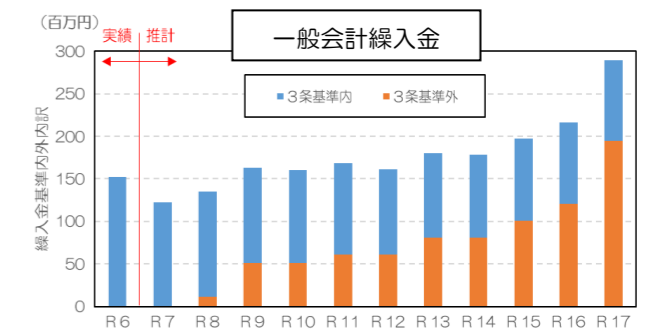
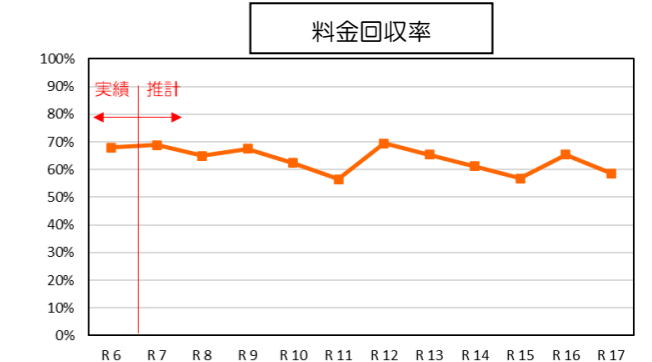
企業債及び国庫補助金は投資計画に応じた所要金額の確保に努めます。

・繰入金

基準内の繰入については、総務省が定める繰入基準に基づき、繰入金の確保に努めます。また、料金改定率の抑制のため、一般会計から基準外の繰入を行い、収支の均衡を図ります。

※ 基準内繰入：総務省が定める、公営企業会計の経営安定化のために一般会計から資金を繰り入れる際の基準に基づく繰入金。高料金対策に要する経費が該当。

※ 基準外繰入：繰入基準に基づかない、経営安定化のために必要な繰入金



5 経営戦略の事後検証、更新等

毎年経営戦略における収支計画と決算値との比較を行い、その整合性を検証します。5年後の令和12年度に中間見直しを行う予定としていますが、毎年の検証の結果、乖離が大きい場合は経営戦略の見直しを前倒しで行います。また、本経営戦略の計画期間最終年度（令和17年度）に再度見直しを行い、次期経営戦略を策定する方針としています。